

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)
福岡県立 朝倉光陽 高等学校

スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)	社会性や思いやりの心を身に付け、地域を愛し地域を力強く支える人材を育成する学校 農業をはじめ実社会に通じる学びを活かして積極的に地域の活動に参加し、地域の活性化に寄与することを通して、実践力と豊かな人間性を備えた、人生をたくましく生き抜く人材を育成します。	
スクール・ポリシー (三つの方針)	グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	・志を高くもち、得意分野を身に付け、地域社会に貢献する人材を育成します。
	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	・普通科及び食農科学科ともに多様な類型を設け、進路実現に向け徹底した個別指導を実施します。 ・実践力の育成と進路実現のため、様々な資格取得・検定へのチャレンジができます。 ・少人数による授業を取り入れ、多様な学習及び体験により個性を伸ばします。
	アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)	「普通科」 進学・就職など目的意識が明確で、普通教科及び福祉・ビジネスの学習に興味・関心がある人 「食農科学科」 農業に関する専門的な知識を生かした進学・就職に意欲があり、食料生産技術や食品の製造・開発に関する学習に興味・関心がある人

学校運営計画(4月)			評価 (総合)	
学校運営方針	年度重点目標	具体的目標		
昨年度の成果と課題				
昨年度から新型コロナウイルス感染症の対策が緩和され、体育祭や文化祭等の学校行事を実施し、生徒の学校生活満足度を高めることができたが、今後、生徒が主体となる学校行事を計画的に実施する必要がある。 また今年度は、新学習指導要領に基づいた教育課程が完成年度となり、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるとともに、観点別評価について、各観点に基づいた適切な評価と生徒・保護者に説明責任を果たせる評価を実施し、信頼を寄せられる学校経営を実践していく。 進路指導では、生徒一人ひとりの希望に応じた丁寧な指導を行うことで進路実現100%を達成できたが、今後もキャリア教育の充実を図り、生徒の将来像に基づいた進路実現に向けた指導を充実する必要がある。 さらに、生徒の自主性を重んじる校則に変更したが、引き続き時代の変化に対応できる規範意識、挨拶、言葉遣いなどマナー全般について指導内容を充実させる必要がある。 生徒募集では4年連続で中学生体験入学の参加者が増加し、広報活動について一定の手ごたえを感じられ、普通科は年々志願者が増加している。しかし、食農科学科は定員割れが続いており、専門性を活かしたキャリア教育の充実を行う必要がある。 人権感覚の涵養においては、ソーシャルスキルトレーニングを導入し、望ましい学級づくりと仲間づくりを推進するとともに、面談週間等を活用し、ひとりひとりの生徒にとって居場所やそれぞれの個性を尊重し、生徒が安心して生活できる学校を整備したい。	地域との関わりを大切にしたい。魅力ある学校作りのためのカリキュラム・マネジメントの推進	①保護者・地域・関係機関等への情報発信を積極的に行い、地域に信頼される学校作りに努める。 ②ボランティア活動や販売実習などの校外活動の推進に努める。 ③各学科の類型の特色を踏まえた教育活動の充実を図る。	A	
		生徒会・農業クラブ・家庭クラブの活性化(積極的な生徒指導)		①各組織の到達目標を明確にした活動を実践する。 ②生徒会のスローガンの下、学校行事や委員会活動を活発に行い、多くの成功体験を積み、自己有用感を高める。
		ICT等を有効に活用した授業改善と適切な観点別評価の実施		①一人一台端末等を活用した職員の授業力、指導力の向上に努める。 ②観点別評価については、個々の生徒の個性や特性に十分配慮し、全教科・全学年で適切に実施する。 ③授業規律である「光陽スタンダード」を着実に実施し、落ち着いた授業の中で確実な学力の定着を図る。
		人権感覚豊かで思いやりのある生徒の育成 (通常の授業での人権教育)		①悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。 ②人権教育に関する講演会及び人権教育授業を充実させ、生徒の人権感覚を育成する。 ③SST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、他者理解や集団で必要なコミュニケーション技術を育成し、良好な人間関係の構築に努める。
		キャリア教育の充実		①専門教育の体系化を図るとともに、専門知識と技術を身につけた幅広い職種に対応できる人材を育成する。 ②キャリア教育の視点から進路学習の充実と職業観・勤労観の育成を図る。 ③3カ年を見据えた段階的、教科横断的な取組を行う。
		生徒の安全管理の徹底		①学校安全や交通安全の意識を高め、事故防止と危機管理の高揚に努める。 ②防災教育を充実させ、予期せぬ自然災害等にも対応できる意識を高める。

自己評価							学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学校経営	学校教育目標及び本年度の教育重点目標の実現に向けた各取り組みを推進する	生徒会や農業クラブ・家庭クラブ等の生徒主体の活動を活発化させ、各種活動や行事に計画的に取組むことで、生徒の学校生活満足度を向上させる。 適切な言語感覚を身につけるとともに、ひとりひとりの人権感覚を磨いていじめを生まない環境づくりを行う。挨拶運動を継続的にを行い、笑顔と大きな声で挨拶できるように指導する。 個人面談週間を活用し、生徒の実態や特性に応じて生徒理解や進路実現のために適切な指導を行うとともに、生徒の3年間を通じたキャリア教育を推進する。	「自分のいいところを伸ばすことができる・見つけられる」ととてもそう思う・まあそう思う82% 「総合して学校生活に満足である」ととてもそう思う・まあそう思う83%	A	A	生徒が主体的に活動する場面を多く設定したことで、学校生活に対する満足度は8割を超えている。公開授業を機に、人権教育について意識する研修を実施し、授業を中心に言語感覚や人権感覚を身につけるよう指導を行った。学校行事や挨拶運動などを中心に、職員の合意形成のもと日常的に啓発活動を行う。 個人面談による生徒状況を把握し、学年会をとおして速やかに情報共有ができていた。個々の生徒理解や進路実現、自己有用感の向上などに結びつける体制を構築することで、生徒が安心して登校できる学校づくりを目指す。また、SCやSSWを活用し、中途退学者の減少に向けた早期発見・早期対応を行う。	A	・ボランティアは多くの要請があり、多くの生徒が活動している。時間や費用なども含めて精査し、充実した活動にしてほしい。
	地域の信頼と期待に応えられる学校経営を目指す	本校の教育内容を浸透するための取組みを継続し、中学校訪問や出前授業を積極的に行う。 本校のPRのための学校パンフレットや学科紹介の広報活動を充実するとともに、HPの更新による情報発信を積極的に行い、体験入学者数を増加させるとともに、本校への理解度を高める。 地域イベントやボランティア活動を推進し、地域からの信頼を高める教育活動を実践する。	「ボランティア活動・地域での活動」→84% 「朝倉光陽高校を選ぶ際に参考にしたもの」→学校HP18%、学校パンフレット→28%(計46%)	A	A	中学校・中学生とその保護者に向けた広報活動により、本校への興味・関心は高まっている。本校のきめ細やかな指導と生徒の活躍について、生徒やSNSによる効果的な情報発信の要領を検討する。 ボランティア活動について、地域からの要請が多く、地域連携が図れていると考える。	A	・地域連携では中学校だけでなく小学校とも連携し、地域活性化に協力してほしい。
教務	基本的生活習慣と学習態度の確立	生徒の出欠状況を常に把握し、情報を各部署と共有することで生徒への素早い指導を確実に行う。 遅刻する生徒に対して毎回指導をする機会を設け、遅刻に対する意識を変えていくことで遅刻者の減少につなげる。 生徒の授業への取組状況を把握して適宜個別面談等を行い、授業への取組の改善を図る。 授業評価アンケートを行って授業内容の反省・改善を図り、生徒の授業満足度を高めることで、学習意欲の向上につなげる。	生徒授業アンケート 「この科目の授業でchromebookをどれくらい頻繁に使用しますか?」→「4使っていない」第1回43.4%、第2回28.9% 「この科目の授業について、どれくらい理解できていると感じていますか?」→「十分理解できている」第1回49.5%、第2回35.5%	A	B	スプレッドシートを用いた動態管理により、生徒の遅刻欠席状況を職員全体で共有できている。遅刻連絡を入れたまま登校していない生徒や、連絡なく不在の生徒の確認漏れも防止できた。授業評価アンケートでは、「この科目の授業について、どれくらい理解できていると感じていますか?」などの項目で、1回目から2回目にかけて肯定的回答の減少が見られたが、アンケートの取り方の工夫により、現実的な数値が出たものとらえている。また「この科目の授業でchromebookをどれくらい頻繁に使用しますか?」の項目において「使っていない」が14.50%減少し、授業方法の工夫がなされたことがわかる。	A	特になし
	校務の確実な遂行と迅速化	各学年、各部、各教科に対して先を見通した提案を心がけ、連絡調整の円滑化及び連携の強化を図り、計画的な校務遂行に努めるために、職員アンケートを実施し内容の充実を図る。 役割分担を明確にして各自が責任を持って業務に取り組み体制を整え、1つ1つの業務に対して慎重かつ丁寧に業務を遂行する。	職員アンケート 「学年・分掌・教科に対して先を見越した提案ができていたか?」 2. できた 60% 3. どちらでもない 40%	A	A	出欠入力や授業変更を始めとした業務を確実に遂行することができた。行事予定の提案等も計画的に実施することができていた。一方で、行事予定の安心メール配信までに時間がかかっていた。生徒保護者への伝達が遅れることがあった。各月の配信予定日を設定することで計画的な配信を行っていた。	A	
	新教育課程への対応および統合型校務支援システムの効果的運用	新教育課程に対応した評価方法を確実に実行し、生徒の良いところを積極的に評価することで生徒の成長を促す。また各教科担当にさらなる授業の改善を求め、学校全体でよりよい授業づくりを行う。 校務支援システム運用3年目として1つの完成形を整える。作業の流れ等をマニュアル化し、システム担当者の負担軽減を目指すとともに、職員の活用を促す。	職員アンケート 「学年・分掌・教科に対して先を見越した提案ができていたか?」 2. できた 60% 3. どちらでもない 40%	B	A	ルーブリックやフィードバックシートを活用することで観点別評価を行う仕組みが定着してきた。学習評価についての研修も啓発に効果的だった。一方で、三観点の内の、特に「主体性」の評価の実践については、引き続き学習の機会が必要である。校務支援システムの運用はシステムの担当者を増やすことで負担軽減が実現できた。さらに操作に習熟した職員を増やし、業務の円滑化を図りたい。また、職員の活用についてもマニュアルをさらに整備し、業務改善に利用できる場面を増やしていきたい。	A	
生徒指導	生徒会・各種委員会等の活動をさらに前進させ、自己肯定感や自己有用感を育み生徒の成長につなげる	生徒会主導で校門等での朝のあいさつ運動に取り組み、生徒会スローガンのもと、活気ある学校の雰囲気づくりを行う。 生徒会・各種委員会の会議を定期的に開催し、各取組活動を推進していく。 学校行事では、生徒会を中心に企画・運営を実践させることによって成長を促す。	体育祭満足度96.5% 一楽しかった72.7% やや楽しかった23.8% 文化祭86% →とても満足43%、まあ満足43%	A	B	・体育祭では、生徒会を始め、3年生リーダーが経験を通して自信へと変化が見られ成長につながって大変よかった。今後も行事や委員会等の活動を推進し、経験を積みませ生徒を成長させたい。 ・光陽祭では、校内公開や一般公開に向けて、生徒一人一人が前向きに取り組めたので良かった。一般公開は台風の影響で公開できず残念であった。職員で成果と課題を共有し次年度につなげていきたい。	A	・全員が体育祭に参加し、さらに農業クラブの大会にも出場できるように、行事予定を調整してほしい。
	校則等の見直しを検証し生徒が自発的・主体的に取り組めるように改善していく。また、安心安全な風土の醸成を教員と生徒で目指す	職員だけでなく、生徒会にも校則等について検討させ、生徒が自発的に取り組むような内容にしている。 各規定等で課題があれば生徒の成長につながるよう改善していく。 いじめは絶対に許さないという態度のもと、未然防止とアンケート等を中心に早期発見・早期対応に努め安心安全な学校を目指す。	いじめ2件 経過観察2件 解消2件	B	A	・今年度から頭髪等の校則の変更で一部生徒に理解できていない面も見られたが、多くの生徒が自ら考えて行動することができた。頭髪等の校則を変更した趣旨を生徒に考えさせ行動させていきたい。今後、規定等に課題があれば次年度に向けて検討したい。 ・いじめ問題については、組織的に適切に対応できた。	A	・光陽祭では、来場者の対応など不安があった。台風で休校になったが、安全に開催できる体制を整えてほしい。
	生徒指導を通して生徒が光陽生として自律できるようにする	登校指導や見守りのための巡回指導等を通して、身だしなみ等の指導をはじめ、生徒の状況等を共有し見守ることで、些細な変化を見逃さずに迅速に対応する。 各講演会等を通して、生徒の規範意識を向上させる。また、教員が生徒の情報を共有し、粘り強く生徒への指導にあたることで生徒の成長につなげる。 生徒指導専任・生徒指導部教員を中心として積極的に生徒に関わり、生徒を認めていくことで学校での居場所を作り、問題行動の未然防止と中途退学防止等に努める。	学校生活アンケート相談4件	A	B	・問題行動等については、生徒の気質も変化してきたが、先生方の未然防止の観点からの声かけや細かな指導によって昨年度より減少しているので大変良かった。次年度も未然防止の観点と積極的生徒指導に取り組むたい。	A	・男子制服の中間服に、ネクタイ着用するなど検討してほしい。

進路指導	生徒・保護者の希望を叶える進路保障を目指す	定期的な進路希望調査を実施し、キャリア教育関連行事を通して、進路意識の向上や適切な職業観の育成を図る。 進路担当教員や進路支援コーディネーターからの「キャリア講話」を定期的に各学年ごとで実施し、より多くの進路関係情報を提供する。 面接試験対策指導や一般教養・SPI試験対策を適宜行い、生徒全員の希望進路実現をサポートする。	【学校生活アンケート】 「将来の進路に役立つ知識や技術を身につけることができる」 →とてもそう思う 34% まあそう思う 54%	A	A	A	就職求人数は大きく増加し、その内容についても、基本給や年間休日数など雇用環境が大変よくなっている。高卒者に対する就職への期待感がうかがえる。その情報を進路セミナーやキャリア講話で、適切に発信することができた。また、面接や履歴書の指導など学年の教員を中心に適切に行うことができた。	A	・学校ホームページやインスタグラムなど、広報が充実している。掲載されている画像が鮮明になると良い。		
	キャリア教育を通して、「幸せで豊かな人生」を想像する力を涵養し、地域に貢献できる「人財」を育成する	学校全体でキャリア教育に取り組む体制を整える。各学年のキャリア教育に関する行事において、学年主任の指揮の下、役割分担を明確にし運営する。 総合的な探究の時間の活動を充実させ、進路情報の提供やコミュニケーション能力の向上、表現力の伸長を図る。 地元の福岡・朝倉・うきはを支える「人財」となるために地域社会の課題についてよく理解させ、体験的な学習を通して「地域創生」の精神を涵養する。	【学校生活アンケート】 「進路指導が丁寧である」 →とてもそう思う 46% まあそう思う 41%	A						A	キャリア教育については、総合的な探究の時間などを利用しながら適切に実施することができた。しかしながら、生徒の変化とともに、内容の改善・刷新の必要がある。3つの学年が連携しながら、「たて糸」のつながりを大切にして、キャリア教育を推し進めていく必要がある。まずは、総合的な探究の時間での活動内容の充実が近々の課題である。
	中学校との情報交換を行い、戦略的に広報活動を推進する	進路相談事業やオープンスクールなどを通して、各類型の特色や学習内容を伝え、特に食農科学科の魅力について中学生やその保護者により多くPRする。 ホームページや学校案内、ポスターなどがさらにアピール力の高いものにし、中学生やその保護者の目に届く広報媒体を充実させる。	【学校生活アンケート】 「朝倉光陽高校を選んだ際に参考にしたものをすべて選び、チェックしてください」 ①学校パンフレット 28.2% ②体験入学 26.2%	A						A	これまでの入学生は、学校パンフレットと体験入学を参考に本校を選んでいる。今年度より、ホームページを刷新し、インスタグラムをスタートさせた。広報媒体を駆使して、安定した志願者数の獲得を目指したい。
図書研修	職員研修の充実	本校の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実践する相互授業参観週間を設定し、授業力向上や改善のための意見交流の場とする。 1人1台端末の有効な活用法について研究し、職員で共有する。 各分掌と連携して、今現在の校内の問題点を解決できるような職員研修のテーマを設定し、充実を図る。	【学校生活アンケート】 「朝倉光陽高校を選んだ際に参考にしたものをすべて選び、チェックしてください」 ①学校パンフレット 28.2% ②体験入学 26.2%	A	A	A	今年度は、県立学校公開授業が本校で行われたため、職員研修等も含めて授業改善に全体的に取り組んでいた。また、一人一台端末の活用については、持ち帰りを促すことはできていたが、有効的な活用法についてはまだまだ議論の必要がある。	A	・読書は、タブレットでもできるため、本を読む生徒はあまりいないのかもしれない。		
	図書館教育の充実	図書委員会を定例化し、読書への興味関心を喚起するような図書館だよりを発行するなど活動を活性化させる。 図書委員会による「朝の朗読」を通して、読書への興味を喚起する。	【学校生活アンケート】 図書館を利用したことがある。44% 学級文庫を利用したことがある。21% 朝の朗読は有意義である。47%	A						A	各学期に朝の朗読を行い、読書への興味を喚起することができた。学級文庫については、まだまだ生徒の活用が少ないように感じるので次の手立てが必要である。
	生徒の心身の健康管理と安全の保持	生徒の心身の不調の早期発見に努め、適切な対応を迅速にとる。 SC・SSW、学級担任や関係職員、医療機関などと連携し、組織的に生徒の支援を行う。 保健環境委員会の生徒による啓発活動を通して、生徒の健康への関心を高め、自己管理しようとする態度を育成する。	SC・SSWの活用状況から生徒・保護者からの認知度が低い。またSCやSSWへ相談することへのハードルが高いことや相談内容が担任に伝わるのではないかと不安があり相談につながっていない。	A						A	生徒の心身の不調の早期発見に努め、必要に応じてSCやSSW、学級担任等と連携し、組織的に生徒の支援を行うことができた。その反面、SCやSSWへの新規面談者数が少ないことから、気軽に申し込みにできるような教育相談だよりなどを活用して周知していく必要がある。
保健環境	教育環境の整備および生徒の美化意識の向上	保健環境委員会の生徒を中心に、校内の清掃の徹底と環境整備に努め、美しく清々しい学校づくりを行う。	保健環境委員会の活動が不十分ではあるが、全校生徒が清掃活動に努めることはできた。	B	B	校内の清掃の徹底のためにも清掃区域と担当の割振りを再検討する必要がある。					
第1学年	基本的生活習慣の確立及び生徒理解	機を逃さず個別指導や学年集会を行い、「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本に、生活習慣が身につけられるように指導を行う。 SHRや学年集会など日々の指導や、進路指導をとおして、先を見とおし主体的な行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。 定期的な個人面談等をとおして生徒の実態把握に努め、規範意識や他者への思いやりの心を育成する。	「自分の良いところを伸ばすことができる・見つけられる」 →とてもそう思う・まあそう思う 79.4%	A	B	B	学年全体として、遅刻、欠席が少なく、出席状況の重要性を認識させることができたが、特定の生徒による遅刻や欠席が目立つ状況が見受けられた。遅刻、欠席が一定回数を超えた生徒については、個別に指導をするシステム等を検討していきたい。また、登校指導を担当する教員から、入学後から現在にかけて、徐々に挨拶を返す生徒が減少しているとの報告を受けた。社会人としての基礎、基本と進路実現を関連させて、指導していきたい。	B	特になし		
	学習態度の育成及び基礎学力の向上	総合的な探究の時間を計画的に利用し、進路や類型選択について意識を高める指導を行う。 定期的な巡回を行い、授業規律及び光陽スタンダードの徹底を図る。また、教科担当や学年団と連携し、早期に成績不振者への指導を行う。	「将来の進路に役立つ知識や技術を身につけることができる」 →とてもそう思う・まあそう思う 84.1%	A						A	母校訪問や進路ガイダンスなど、計画的に総探を実施することができた。特に9月に実施した進路ガイダンスでは、事後指導に力を入れ、全生徒にガイダンス内容をもとにプレゼンを作成させ、クラス、学年での発表会につなげることができた。また、光陽スタンダードを徹底させることで、各クラス統一した環境整備に取り組むことができたので、今後も継続していきたい。
	保護者や中学校及びSC、SSW等との連携	日頃から電話連絡や面談等をとおして保護者との連携を図り、中学校やSC、SSWと情報共有し、生徒の個性や特性に適した指導に努める。	いじめ2件 解消2件	B						B	学年職員で協力し、生徒、保護者対応等に当たっていたが、SC、SSWとの情報共有や連携のタイミングが不十分である場面があった。常日頃から、生徒をよく観察し、些細なことであっても、保護者への電話連絡や家庭訪問を学年職員で分担、協力して取り組んできた。

第2学年	基本的な生活習慣の確立及び自己有用感・他者を思いやる心の育成	授業やSHR、学年集会などの日々の指導を通して、礼儀正しい行動や時間、物を管理する力を身に付けられるように指導をする	「学校の雰囲気や将来の進路、自分の良いところを見つけたり、技術を身につける事ができる」 →とてもそう思う・まあそう思う 85.2%	B	B	B	事ある毎にHRや集会において話をし意識させてきた。時期を増すごとに意識を高めさせる指導を今後も行う。提出物の期限などスケジュールの管理を主体的に行えるように指導継続する。来年度最上級生となるための意識付けを行い、各自が自覚を持って行動できるように節目ごとに指導を行う。 今後も友達を思いやる気持ちを持たせ、助け合いの心を今後も育てる。ボランティア参加の意義を十分に理解させ、主体的に参加できるように促す 養護教諭やSC、SSWとも協力し生徒の新しい情報を共有し、生徒の見守りを行い問題を未然に予防するように今後も取り組む。	B	・ルールを守ることが、信頼される人になることに気づくような指導をしてほしい。
		学校行事やボランティア活動への主体的な参加を促し、自己有用感を高めることやチャレンジ精神を育む。また、学期・行事毎に、振り返りを行うことで自分自身を振り返り各自必要事項を自覚させる。(ログに残す) 各自が具体的な行動目標を作成し、共に学び成長し、級友を思いやる気持ちを育成する。		B					
		学校や社会のルールを守り、自分も他者も大切にすることができる生徒を育てるために、教員間での情報共有を密に行って生徒の実態把握に努めることと、それを基に学年指導と個人面談を通して適切なコーチングを行う。		B					
第2学年	進路に対する意識の向上と進路実現に向けての必要な力の育成	インターンシップやオープンキャンパスの事前・事後指導を通して、今後の学校生活で進路目標を持てるようにする。また、積極的な資格取得を促し、主体的な進路選択を行う能力を養う。	「地域交流がある・企業との交流がある」 →とてもそう思う・そう思う86.7%	B	B	B	インターンシップでは、来年度の進路選択や働くことについて良い体験ができた。今後いろいろな資格取得や体験等に挑戦する気持ちを育成する。 HRや総探、集会等で来年度へ向けおじぎや挨拶の意識付けを行った。まだ不十分な面は多いが、校外での行動やマナーについても身近のものとして今後各自が意識し取り組めるように指導を行う。	B	
		社会人として必要なマナーやモラルを身に付ける一助となるよう、巡回指導や授業など各指導の場を通して、授業規律の徹底(光陽スタンダード等)を図る。		B					
第2学年	保護者やSC、SSW。保健室と連携し生徒支援の実施	日頃の電話連絡や面談などをとおして保護者との連携を図る。また保健室やSC、SSW等と生徒情報を共有し、生徒理解及び心のケアに努める。	「勉強やそれ以外での相談できる」 →とてもそう思う・そう思う 77.8%	A	A	A	保護者との連絡や、情報共有はおおむねできている。養護教諭、SC、SSWとも協力し生徒が、悩みを気軽に相談できる環境を作り、今後も連携し漏れなどがないように協力して生徒を見守りたい。	A	
第3学年	社会人基礎力の定着と最上級生としての自覚を持たせる	生徒の進路実現を念頭に、挨拶、返事の励行。時間厳守の指導を徹底し、基本的な生活習慣の改善と社会人基礎力の定着を図る。	「将来の進路に役立つ知識や技術を身につけることができる」 →とてもそう思う・そう思う87.3%	B	B	B	行事や生活面、進路面に関する日々の指導を通して、最上級生、またリーダーとしての自覚のある生徒が増えてきた反面、個々に課題を抱え、なかなか変化の見られない生徒もいるため、各クラスで個別指導を要することが多かった。今後は卒業に向けて、残りの高校生活の過ごし方を考えさせて、気を抜かないように声かけや指導を行ってほしい。	B	・1年次は統率が困難な状況がみられたが、卒業を控えて全体が落ち着いている。
		SHRや学年集会など日々の指導、そして進路指導をとおして、先を見通した行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。		A					
		学校行事や部活動で中心的な役割を担うことで、学校のリーダーとしての自覚を育成し、最上級生として模範となる。		B					
第3学年	進路希望の実現	進路指導部や各類型と連携し、進路決定に必要な情報を提供するとともに、定期的な個人面談等をおして積極的な支援を行い、希望進路とのミスマッチを防ぐ。	「進路指導が丁寧である」 →とてもそう思う・そう思う 89%	A	A	A	進路指導部や保護者はもちろん、SSW、また就労支援センターなどの外部の機関と連携して進路指導を進めた結果、各生徒に適した進路実現に向けて尽力できた。また、面接指導や履歴書指導においても昨年度までのノウハウを踏襲しつつも、生徒の実態に合わせて段階的に取り組むことができた。未決定者に対しても、最後まで丁寧に指導を行いたい。	B	
		進路実現に向けて、計画的に総合的な探究の時間を展開するとともに、面接練習の記録簿を作成・活用することで、継続的・段階的な指導を行う。		A					
第3学年	保護者やSC、SSW等との連携	日頃の電話連絡や面談などをとおして保護者との連携を図る。またSC、SSW等と生徒情報を共有し、中途退学防止並びに生徒の個性や特性に適した指導に努める。	「先生に勉強以外のことを相談しやすい」 →とてもおもう・そう思う 79%	B	B	B	情報共有・相談をしながら生徒の見守り・支援に努めている。しかし、中途退学した生徒もおり、卒業までの過ごし方については、十分注意して見守って行く必要がある。	B	

食農科学科	進路実現を見据えた特色ある学習活動を展開し、勤労意欲の醸成を図るとともに、正しい職業観の育成を図る。	プロジェクト学習はじめ、ICTを活用した魅力ある農業教育とGAP教育の充実と安全教育に努めるとともに、食農科の学習内容の改善・充実を図る。また、各種資格取得率(80%)を目指しキャリア教育の充実を推進する。	「地域との交流がある(インターシップやイベントなど)」 →とてもそう思う・まあそう思う 1年47%、2年82%、3年91%	B	A	B	「農業と環境」「総合実習」「課題研究」等の授業において、ICTを活用してデータの集積や情報共有を行いプロジェクト学習の基礎を確立しつつある。今後はGAP教育やスマート農業について農業教育の充実を図る必要がある。積極的に資格取得に取り組んだ。取得率が低い検定については継続的に知識技術の定着が必要である。今年度も農業クラブの九州大会出場を果たした。また、執行役員を中心に農業クラブ活動を通して、リーダー育成やクラブ活動の活性化にも努めた。	A	・様々な商品開発に挑戦しているが、地域貢献の一環として防災食の開発に取り組んでみてはどうか。 ・「生徒が育てた、植えた米が欲しい」と尋ねられることがある。定期的に販売するなど、販売機会を増やし、生徒に販売させてほしい。
		農業クラブの活動をおとして、生徒の目玉性・科学性・指導性を身につけさせ、農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の面白さを理解させ、自己肯定感の醸成を図り、社会の一員としてふさわしい資質や態度を育む。各種競技大会にて九州大会への出場を目指す。		A					
		地域社会(自治体・地元企業・農業経営者)と連携しながら地域農業及び関連産業に貢献ができるグローバルな視点を持った生徒を育成するとともに、働く意欲を養い、正しい職業観とマナーを身につけさせ進路実現に繋げる。		A					
	地域共創の理念に基づき、学習成果を活かしながら、地域から愛され、信頼される人材の育成と魅力ある農場づくりに努める。□	「未来を切り拓く人材育成事業」等の事業を活用し、外部講師を招き専門教育の質の向上や地域に本学科の情報発信する取り組みを行うとともに、募集定員割れを防ぐ広報活動にも力を入れる。	販売会(校内販売、地域イベント等) 計8回	A	B	B	各種人材育成事に取り組み、地域の人材や資源を活用して、教育活動を展開できた。朝倉市、森林組合、専門学校等と連携を図ることで、食品加工の専門技術の習得や地域資源の保全や活用方法を学んだ。今後も朝倉市、朝倉地域の産業を中心に連携を強めていきたい。「ウォーターフェス」「あさくら祭り」「市役所販売」「県庁ロビー販売」などイベントに参加し地域貢献や学習成果物のPRをすることができた。今後も各類型の特色ある教育活動を展開、学校PRすることで、自己有用感や社会人基礎力の向上と職業観や社会的要請の醸成に繋げていきたい。	A	・納豆の特徴をもっと広く知ってもらえるような広報活動を充実させてほしい。 物価と時代の変化に対応し、販売のチャンスを見逃さないように。 ・「作る・売る」という体験を「経営力」の育成に繋げてほしい。
		地元農産物を使った商品開発に取り組み、地域に愛されとともに、地域に活力を与える人材を育成し魅力ある農場経営を実践し、学校のPRを推進するために、販売物にはオリジナルシールを貼付し、本校のブランド力を高める。		B					
		農場や地域資源を活用し、経営コスト削減や改善を図ることができる知識・技術を身につけさせる。また、将来、地域農業や関連産業で活躍できる人材を育成するために、保護者や中学校、地域の方々に学習成果発表会を実施する。		B					
特別支援教育	支援が必要な生徒に対して適切な対応を検討し、進路実現と自立に向けた支援を行う。	対象生徒の個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、組織的かつ計画的な支援を行う。	支援が必要な生徒が増加傾向にあり、通級担当者やSC、SSWなどと連携し、学校全体で情報共有を行い組織的な支援と指導につなげている。	B	A	A	今後も支援が必要な生徒の特性理解のために積極的にSCやSSWと連携していき、個の特性に応じた進路実現と自立に向けて、学級担任や進路指導部などと連携していく。	A	・特別扱いではなく、視野を広げて対応する配慮が必要。
		特別支援教育委員会を開催し、対象生徒の情報共有や支援内容の検討を行い、組織的な支援と指導につなげる。		A					
		進路指導部との連携を図り、個の特性に応じた進路実現と自立に向けた支援と指導を行う。		A					
人権教育	人権・同和教育推進体制を確立し、生徒の人権意識の高揚を図る。	学年単位、クラス単位で人権・同和特設授業を行うことにより生徒の人権意識の高揚を図り、生徒が安心して学校生活を送れる環境作りにも努める。		A	B	A	年度当初の計画に従って、全校で人権・同和教育が実施できた。また、県公開授業の実施と相まって、充実した職員研修ができた。 日常的な場面での人権意識の涵養と実行力の育成が課題である。	A	特になし
		学年や分掌と連携し、人権関係の各種研修会、学習会に積極的に参加することによって人権感覚を磨き、教育活動の充実を図る。		B					
	生徒の実態を把握し、修学支援、進路保障の取り組みを進める。	中学校、関係諸機関、SSW、SC、訪問相談員と連携を図り、課題を有する生徒の情報収集と支援を進める。		B	A	A	生徒情報の把握については、職員間での細やかな報・連・相により、迅速な支援や対応ができた。 職員集団のスキルアップや関係機関の利用等を通じて、進路変更や中途退学防止に関しての一層の実績向上を図りたい。		
		いじめ対策教育相談委員会や生徒情報交換会をおとして、全職員での生徒情報の共有化を図り、迅速な対応に努める。		A					
		不適正選考を排し、「申合せ」違反等については、担任や進路指導部、ハローワークとの連携を図り、進路保障の取り組みを進める。		A					
				A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを重視し、学校の現状に触れる機会をできるだけ増やすような広報活動に取り組む。 ・農業の就労者が少ないが、将来農業の応援団になる人材を目指す。農業を学んだことで、一度企業で働いた後農業に戻ることもある。場合によっては客観的な視点を持つことで良い結果につながることもあるので、長期的に農業に関わる進路指導にも取り組む。 ・体育祭等の学校行事は、他の行事との関連を考慮して計画する。 ・SCやSSWと日常的に連携し、協力体制ができています。生徒一人一人が安心して元気に学校生活を送ることができるために、さらなる教育活動の充実を図る。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	